

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100167		
法人名	医療法人 祐和会		
事業所名	グループホーム ユーミー 2階ユニット		
所在地	〒690-0055 島根県松江市津田町313		
自己評価作成日	平成23年12月12日	評価結果市町村受理日	平成24年2月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do?PCDd=32">http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do?PCDd=32</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン
所在地	島根県松江市上乃木7丁目9-16
訪問調査日	平成24年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

診療所併設の特徴を生かし、法人内の医師と連携し常に利用者の健康状態や状態変化に応じた支援を行っています。理念である[自分らしく・穏やかで・安らぎのある生活]に向けて、[その人らしさ]を大切に一人ひとりの思いや生活スタイルに沿った支援に努めています。今年度は[地域との交流]に重点を置き、実習生の受け入れや地元小学生との交流、学校行事への参加などを行ってきました。運営推進会議を通して築かれた関係により、ボランティアに来て頂いたり、ウエスなどを定期的に差し入れて下さるなどの協力も得られるようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員間で意見を出し合い、新たな理念を作りあげた。日々目にする箇所に理念を掲げ、自分自身のケアを見つめなおすことに繋げている。	理念については、職員体制が変更になった際、新しい職員を含め検討し、新たな理念を作り上げている。家族へも通信の中であいさつ文に添えて伝えており、エレベーターの中や目につきやすい場所に掲示し共有するように努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた際、出会った近隣の方には積極的に声をかけるようにしている。今年度は小学生との交流や、学校行事への参加も行うことが出来た。	公民館行事への参加を希望しており、町内会への入会を申し込んでいる。近隣の独居の方を対象にしたサロン開催の計画も持っており、積極的に地域との交流を持つように働きかけている。	地域の行事等へ積極的に参加することや、施設に地域の人を招くような企画などで、より幅広い関係作りに取り組んでいただきたい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行い、受け入れ時には初めに認知症についての学習時間を持ち、認知症の理解を深めてもらえるように取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や状況報告の他、家族の参加も増えるようにミニ講座を聞くなど工夫している。会議で出た意見や頂いた情報などを会議録を通じ、全職員で確認し、今後のケアに活かせるよう検討している。	地域からは町内会長や民生委員、行政の関係者や家族の参加を得て3ヶ月に1回開催されている。入居者の現状報告に加え、苦情処理や新たな取り組みの紹介、ミニ講座など、興味を引くように内容を検討し開催に繋げている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場を利用し、意見交換の機会をもつ他、日頃から困った時は市の担当者に連絡し相談するようにしている。	運営推進会議に毎回参加を促し意見を求めている。日常的にも相談をしたり連携を密にし、良い協力体制を築いている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束について学ぶ機会をもち身体拘束をしないケアの在り方、利用者本位の視点について話し合っている。	身体拘束は行わないケアを実施しており、医療行為など必要な時にも必ず職員がつくようにしている。委員会での勉強会は定期的に行われている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で高齢者虐待防止法に関する理解や遵守に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で計画的に研修を実施し、職員全体で学ぶ機会を持っている。今年度、成年後見制度を利用された利用者があり、全体の流れを実践を通じて学ぶことも出来た。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については、時間をかけ説明するようにしている。内容を理解し納得された上で署名・捺印を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者自治会での意見・要望を聞く場をもつ他、家族には面会時等で問いかけ、その場で意見や要望を聞くようにしている。	1か月に1回のペースで自治会を開催し、利用者から行事や食事等、様々な意見を聞く場として、すっかり定着している。家族からは面会時に声がけし意見要望等を聞くようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングの場で職員の意見や要望を聞くようにしている。また、日頃から職員の意見や要望が言いやすいような関係づくりを心がけている。	会議の場で意見を求めるようにしたり、ノートに記入するなど、文書による提案形式もとっている。経験の少ない新人職員の意見も多く出ており、新鮮な感覚として積極的に取り入れている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も日常的に職員との関わりを持っており、現場の状況を把握している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けての支援体制あり。外部研修の通知を全職員に行い、希望者に優先的に研修に参加してもらい、ミーティングの場で研修報告を行い、全職員で情報を共有出来るようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等で他事業所との交流・意見交換・情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の問い合わせがあった時点で、実際に見学に来てもらい施設内の雰囲気や様子を感じて頂いている。入居前の面接において、本人の思いや不安などを把握するようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の入居に関する不安、要望を聞き取り、事業所としてどのような対応が出来るか話し、不安解消に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他のサービスを紹介するなどしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを理解し、共に支えあえる関係づくりを心掛けている。本人の出来ることや得意なことに働きかけ、家事を一緒にしたり、裁縫を教えて頂いたりしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ユーマー通信の送付や面会時の情報交換などを行い、本人と家族様の絆が保たれるよう心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が会いに来たり、電話や手紙での連絡を取り持つなど馴染みの関係が途切れないよう支援している。	近所の人や友人の訪問の際には、できるだけ楽しめるような雰囲気づくりをしたり、今までの良好な関係が継続するようにしている。年賀状や手紙のやりとりや、電話での会話の機会を支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの席位置に配慮し、入居者同士の関係について職員間でこまめに情報交換を行い良好な人間関係が保たれるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居先にも面会が可能な場合、会いに行き、本人や家族の相談支援に努めている。		
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気なく口にされた言葉にも耳を傾け、本人の思いや意向を把握するよう努めている。	日頃のなにげない会話の中から、できるだけ思いや希望を聞きだすように努めている。難しい場合は家族から聞き、支援に反映できるようにしている。問題意識を持った会話を心掛けている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方などを本人や家族知人などから継続的に把握出来るように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握すると共に、生活環境に配慮し、本人の負担にならない範囲で活動参加を促し、本人が出来ることの発見に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には日々の関わりの中で意向を聞き、意向を反映させるようにしている。毎月担当職員を中心にモニタリングを行い、プランの評価は職員全員で行うようにしている。	管理者が計画を作成し、評価は毎月1回のモニタリングの結果から、見直しに繋げている。利用者に沿ったものになるように職員全員で検討するようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況及び日々の暮らしの様子や、本人の言葉・エピソード等を記録している。状態変化はケア記録に残すほか、申し送り表にも記入し、全職員が勤務前に確認するようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に応じて、急な外出・外泊・通院にも臨機応変に対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長・民生委員の方たちとの連携を図り、情報交換や意見交換をする機会を設けている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の診療所があるが、主治医は本人や家族の要望で決定している。併設診療所の医師との連携も図れている。	以前からのかかりつけ医は継続しており、必要に応じて受診の付添もしている。併設の診療所の医師との連携も図れており、家族の安心に繋がっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。ケア記録・申し送り表をもとに看護職員との連携を図っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が同行し、病院側に必要な情報提供を行っている。入院中も面会に行き、関係者からその都度情報を得て、早期退院に向けて、併設診療所の医師と検討を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の対応、看取りに関して説明を行い、本人や家族の意向・希望を確認している。入居後は本人の状態変化に伴い、その都度、家族と相談しながら対応を検討している。	入所時に説明を行い了解を得てからの利用になっているが、看取りの必要性から終末ケアについて、研修会等で取り組んでおり今後の検討課題としている。重度化した場合はその都度話し合いの機会を持ち、できる範囲で対応するようにしている。	療養型からの継続利用の方など重度化しており、終末ケアへの取り組みの必要性が高くなってきているように感じる。家族へのケアを含めた看取りの体制づくりに期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成している。全職員が急変や事故発生時に対応できるようマニュアルの周知徹底を図っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、避難訓練を行っている。地域との協力体制については、運営推進会議を通じて協力を呼び掛けているが、現時点ではまだ体制が整っていない。	より身近な形となるよう、いろいろなパターンを想定して、毎月1回定期的にミニ訓練を実施している。地域の協力体制を得るために、運営推進会議等での働きかけを続けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての勉強会を実施し、日々のケアについて考える機会を設けている。	排泄時の声かけもさりげない形で促すなど、不適切なケアにならないよう言葉かけには注意している。プライバシーや個人情報、接遇等の研修も重ねている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かをする前には必ず本人の意思を確認するよう努めている。普段からコミュニケーションを多くとるように心がけ、会話の中から本人の思いや要望を聞き取るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのペースや体調に合わせ、したいことをしてもらうようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は自分の好みで選ばれている。自己決定がしにくい利用者には、家族などから好みを聞いておくなどして、本人の好みに沿うよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態に合わせ、食べやすいように食事形態を配慮している。味見やお茶配り、テーブル拭きや食器洗いなど出来る部分でそれぞれ参加して頂いている。	外部給食を利用しているが、月1回はお昼を手づくり給食にしている。下準備や後片付けを手伝うなどできる範囲で利用者の参加を促している。職員が間に入り一緒に楽しい雰囲気の中、食事がとられている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士がチェックを行い、バランスの良い食事がとれるように支援している。食事量を記録し、その情報を職員間で共有している。食事量が低下した場合は間食で補っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け支援をしている。個々の状態に応じて、見守りや歯磨き・義歯洗浄やガーゼによる口腔清拭を行い、肺炎防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意思表示がうまく出来ない方は表情や行動を観察しながらトイレ誘導を行っている。日中はパットのみを基本とし、パットも状況に合わせて使い分けている。	個々に合わせた排泄パターンを把握し、自立に向けたトイレ誘導や、残存機能を活かしたトイレ介助に心掛けている。おむつ使用者には定期交換を基本としており、不快感を与えないように配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を促すよう、毎朝ヨーグルトを提供したり、1日の水分量を把握し、十分な水分補給を行うようにしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて朝から夕方にかけて入浴して頂いている。入浴できない方は足浴や清拭などを行い個々に沿った支援を行っている。	毎回必ず意志確認をし、無理強いしない形で支援しており、時間的にも対応できる範囲で応じるようにしている。入浴できない方は、清拭や足浴を行い清潔の保持に留意している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。寝付けない方には温かい飲み物を出し暫く寄り添うなど個別に対応している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の服用している薬を把握出来るよう、薬の説明書を個人ファイルに保管している。配膳前に複数の職員で確認し、服薬時は必ず飲み込まれたことを確認している。状態に変化があれば、主治医に報告し連携を図っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なことで力を発揮してもらえような仕事を頼み、感謝の言葉をかけている。外出や毎月の行事などは利用者と相談しながら内容を決めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿うよう家族の協力を得ながら外出するようにしている。	近隣への散歩等を行っているが重度化しており、外出には車いす使用や天気などへの配慮も必要なため日常的には行われていない。今後は車いす用の車両が入ることが予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少量の現金を自分で管理されている方もある。お金を預かり、事業所で管理している方でも外出時には財布を渡し、自分で支払ってもらうようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日常的に電話の支援を行っている。年賀状などハガキや手紙を書く支援も行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節を感じる温かみのある空間となるよう心がけている。テーブルにはホーム内で咲いた花を飾るなどしている。	共有の空間は外がよく見え明るく、季節の花を飾ったり、壁面に季節ごとの作品を飾ったりして、季節感ができるようにしている。アニマルセラピーを取り入れ金魚の飼育も始め、より利用者が集まりやすい雰囲気を作っている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファコーナーを利用して頂いたり、窓辺の椅子に腰かけるなど思い思い好きな場所で過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具を持ち込んで頂き、本人やご家族と相談しながら居心地の良い環境づくりを行っている。	家で使い慣れた物の持ち込みは積極的に受け入れている。ベッドやトイレなどの配置は利用者の使いやすさを考えた配置とし、居心地の良い環境づくりに配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札があり、自分の名前が確認できる。夜間も安全にホーム内を歩けるように階段室の電気は常に明かりを灯し、居室扉付近に足元灯を設置している。		